

## 実践事例

### 小学部の実践

# 生き生きと生活にとりくむ子を育てるには どのようにしたらよいか

—— 宿泊学習をとおして ——

## 1 小学部における宿泊学習の基本的な考え方

小学部の学習指導では、自立化の各重点項目を中心課題として取り上げることになっている。指導にあたっては、低学年では直接行動に訴えたり教師の示範を通しての模倣など、行動（からだ）を通して、また、中学年ではそれを土台にして教師・友だちのかかわりの中で言語（ことば）を通して、さらに高学年ではできる限り記号や図式を通して、それぞれ表現する方法を工夫し、生活の中で生かせるよう方向づけられた中で展開しているのである。

小学部の宿泊学習においては、この基本的な考え方に立って、低・中・高学年が一貫した取り組みを計画し指導にあっているが、宿泊学習の共通のねらいを挙げると次のようなものである。

- (1) 子どもの表現活動を大切にしながら基本的生活習慣の確立に努める。
- (2) 集団での生活を経験させ、仲間意識を育てる。
- (3) 親からの心理的離乳をはかる。（親の心理的離乳をはかる）
- (4) 通常の学校生活では観察や指導の難しい事項の生活実態を明らかにし、今後の指導の見通しをたてる。
- (5) 家庭との連携を重視して、日常生活での身辺自立に伴う諸問題について話し合い、子ども家庭生活を共通理解の上に立って考える。

この中で、(1)(2)は直接指導上のねらいであり、(3)は指導の背景として心理的な効果をねらい、(4)は教師の子どもの実態把握に欠くことのできないねらいである。また、宿泊を通して家庭では見られない子どもの姿を是非親に知ってもらい、家庭での親子関係・生活改善に役立ててもらうためであり、更に、児童・親・教師が一体となって子どもの発達を考えていかなければ学習効果は半減すると考えるので、(5)は是非とも必要なねらいである。

以下、低学年の場合を中心に、宿泊学習を通し社会自立をめざす小学部の実践について述べる。

## 2 低学年における宿泊学習の実践

- (1) はじめに

1年生2名、2年生3名の本学級の子どもたちは、衣服の着脱・排泄等の身辺自立にかかわる

生活習慣がまだ十分身につけていない。これは入門期の子どもたちでは当然のことではあるが、子どもたちの持っている障害が最も大きな原因である。そのほかに予想されることは、親元からほとんど離れたことがなく常に保護され甘やかされていたり、できないからと手をかけられすぎているなど、周囲の過保護と頼ろうとする子どもの気持ちが生活習慣の身につかない原因となっているのではないかと思うのである。

そのため、年度当初より、可能な限り「自分のことは自分でする」という態度づくりを重点に学習指導内容を工夫し、家庭でも協力してもらってきた。

1ヶ月经過した頃より、5人の子どもたちの中から「自分のことは自分でやろう」とする意欲や態度の芽ばえが見られるようになった。例えば、B子は教師が着替えを手伝おうとすると「ジブンデ……」と言い始め、A夫はパンツやズボンをそろえてもらおうと自分で手にもってはけるようになってきたことなどである。

この時期から親元を離して、親子共々の精神的な離乳をはかり、友だちや先生と生活する宿泊学習を計画し、その中で身辺自立への意欲を育て基本的な生活習慣を身につけていくことは、将来の社会自立に向っての第一段階として効果的であると考えたのである。

昨年度までの低学年の宿泊学習は、宿泊を伴わない指導場面を組み立て、諸能力・態度の育成に努めてきたが、実際の宿泊を経験させる効果の大きいことを期待して、今年度から実施にふみきたのである。

## (2) 低学年の児童の実態（4月当初）

### ① 特記事項

児童名	性	年令	学年	主な障害	特記事項
A夫	男	9才	1年	ダウン症	乗り物の絵本を見ること、外で遊ぶことが大好き。他にはあまり興味を示さない。人を叩く、物を投げる癖がある。歩き始めが6才と遅く、足・腰が弱い。言語理解能力はかなりありそうだが、発語はなく「ウッ・アー」のみである。
B子	女	6才	1年	ダウン症	物事への取りかかりが遅く、指示に対して反抗が多い。集団行動ができない。「バカ・アホー」をよく言い、人を押したり叩いたりする。鉄棒・トランポリンを好み、よく遊んでいる。言語理解能力も表出言語もあるが不明瞭。
C子	女	7才	2年	精神運動機能発達遅滞	肥満体で動作が緩慢。表出言語は少しはあるがオーム返しが多い。「おばあちゃん・おかあちゃん・おしっこ」

					が口癖。母親と登校する時は、離れたくなくてよく泣く。グラウンドに出ることを極端に嫌い、「外」と聞くと泣いて逃げ出す。
D子	女	7才	2年	ダウン症	自己中心的行動が目立つ。世話やきで人のことが気になり、自分のことが一番遅くなる。言語能力は、発声面理解面ともかなりあり、よくしゃべる。どんどん言葉を獲得しつつあるが、発音は不明瞭。
E子	女	7才	2年	ダウン症	教師の指示で比較的はやく行動に移れるが、時々「イヤ!!」とやってだだをこねる。友達(D子)に連れまわされ、二人で行動することが多い。反抗する時につばをよくはく。言語理解能力はあるが、表出言語は少なく、完全に発音できる言葉は少ない。

② 身辺自立の状態

児童名	衣服の着脱	食事	排せつ
A 夫 <1年>	指示すれば、上着にそでを通すこと、パンツ・ズボンに足を通してひきあげようとする。ボタン・スナップなどは介助が必要である。	スプーンを主に使用する。手で食べることも多い。食べ物をよくこぼす。	全面介助、頻尿。1日平均3回程度の失敗がある。
B 子 <1年>	時間はかかるが、前ボタン・スナップなどある程度でき、脱いだ衣服は、丁寧にたためる。衣服の前後・表裏もよくわかる。	はしやスプーンも上手に使える。つかみにくいものには手が出る。食器を持たずに顔を近づけて食べる。	ほとんど自立している。大人用のトイレで、使用後水を流し紙も使用する。
C 子 <2年>	入学当初 完全に周囲のものにまかせっきりで、されるがままになっている。脱いだり着たりをしてもらうために手足をさし出す程度である。	はしやスプーンはもてるが、ほとんど手づかみで食べている。よくこぼす。	「おしっこ」と知らせるが衣服の上げ下ろしができない。ふけない。
	本年度当初 やろうという意欲が全くない。すべて指示により介助を受けながら、長時間かけて行う。	はしやスプーンは上手にもてるが、食べ物をかきこむとい	時々、おもらしをすることがある。紙でふく動作だけは、

			う状態。よく手を使う。	かなり定着してきた。
D 子 <2年>	入学当初	自分でやろうという意欲は見えるが、スナップ・ボタンができない。前後・表裏をよく間違える。	はしやスプーンを持って食べる。物をつまむことはできない。	おしりは上手にふけないが、ほとんど自立している。
	本年度当初	前ボタン・スナップがだいたいとめられる。脱いだ衣服が丁寧にたたんで始末できる。衣服の前後・表裏がわかる。	はしやスプーンも上手に使い、ほとんど手を使うことはない。	自立している。大人用のトイレで、使用后水を流し、紙を使用する。
E 子 <2年>	入学当初	着脱意欲はあるが、衣服を手を持たせてもらわないと着替えをしない。	はしやスプーンはもてるが手づかみがほとんどである。	衣服の上げ下ろしはするがふけない。水を流すこともしない。
	本年度当初	服の前後・表裏をよく間違える。ボタン・スナップには補助が必要だが、自分で着替えようとする態度が見えだした。	はしやスプーンも使えるが、よく手で食べている。食器を持たずに食べる。	時々、紙を使うこと、水を流すことを忘れてることがある。大便是時々失敗する。

### (3) 宿泊学習のための事前調査

初めての宿泊学習とあっては、親も子も教師も不安がつきまとうので慎重に準備をする必要がある。家庭における子どもの生活実態を親から聞き出しておくのも、ひとつにはそのためである。事前調査にあたっては、生活習慣調査、親子関係診断テスト、健康観察を行ない、資料をもとに親と話し合い、宿泊学習の低学年のねらいが効果的に達成されるよう留意した。さらに、家庭生活と宿泊学習を通して観察できた変化や事前調査との違いを的確におさえ、以後の指導の資料として生かすよう心がけた。

#### ◎ 事前調査様式 (例示)

児童名	項目 目ざめ	起床時刻	就寝時刻	電燈	寝つき	寝姿	就寝状態	洗面はみがき	入浴	食物の好き嫌い		食事	排便	排尿	備考
										めん類	かたいもの				
A 夫	○	AM 6:00	PM 9:00	消す	○	うつぶせ or 横向き	父と一緒	× ×	父と洗ってもらう	めん類	かたいもの	よくこぼす	夕食後1回介助	夜尿あり 2回	頻尿
B 子	○	AM	PM			上向き	一人	△	父・妹	カレー	ピーマン	じょうず	不定		かぜをひき

事前調査の結果、宿泊を伴う学習に知っておくべき事項は次のようなことであることを確認した。

児童名	学校生活で確認されている事項	事前調査でわかったこと
A 夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>排泄（特に排尿）が自立しておらず、15分～30分間隔で便所へ連れて行く。</li> <li>食事に補助が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜尿が2回程度ある。</li> </ul>
B 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>風邪をひきやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜尿が数回ある。</li> </ul>
C 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>排便が1日1～2回あり介助が必要。（時々、失敗あり）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>寝つき・目ざめ共に悪く、夜たびたび目をさます。夜泣きをすることも時々見られ睡眠不足で調子を崩しやすい。</li> </ul>
D 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>少食（やや偏食）</li> <li>風邪をひきやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>睡眠時、はらまきをする。</li> </ul>
E 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>風邪をひきやすい。</li> <li>便秘をしやすい。</li> <li>排便は3日に一度程度であるが、自分でふけないのでお尻やパンツが汚れたままの状態であることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜尿があるので、夜中に2回トイレに行かせる。</li> </ul>

この事前調査の結果から宿泊学習の立案にあたって次のような点を配慮することにした。

ア、風邪をひきやすい子どもが多いので、湯ざめをしないよう、お風呂上りには早めにパジャマに着替えさせ、扇風機にも長時間あたらせないようにする。

イ、寝冷えをしないよう、腹まきを使用させたり、睡眠中には教師が布団をかけたり、汗をふくなどよく注意する。

ウ、夜尿のある子どもが2名いるが、いずれも家庭では起こさずに眠らせている。この2名に対する配慮としては、途中で起こした為に眠れなくなったり、知らない所で寝ているという不安を起こさせないよう、十分にその時点での子どもの様子を見て、起こすか起こさないかを判断する。起こした場合は、子どもが安心して眠りにつけるよう、そばにいて気持ちを安定させる。

エ、就寝を早めにして、睡眠時間を十分とれるようにする。

オ、食事には、子どもの好きなものを献立に選ぶ。

◎ 親子関係診断テスト

子どもの社会的自立を阻害する要因のひとつに家庭での養育態度が大きなポイントになってくることは当然考えられることである。もちろん学校での指導効果にも大きく影響する問題である。このために親子関係診断テストを実施して親子関係の問題点を探り、今後の指導に役立てたいと考えた。

実施にあたっては、田研式親子関係診断テスト（田中教育研究所、日本文化社）を使用した。なお、本検査には〔両親用〕〔児童・生徒用〕があり両方実施するのが望ましいが、子どもたちの実態から見て〔児童・生徒用〕検査は不可能なので〔両親用〕のみ実施し参考にした。

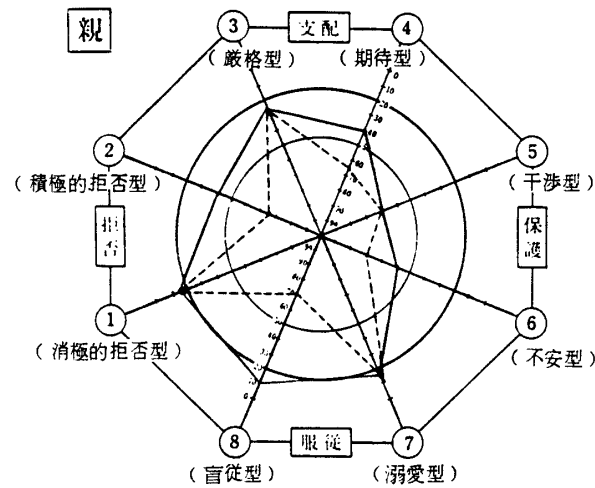
5人の子どもの親子関係調査から、日頃、担任が問題としている点が明確にされ、また父親の姿がある程度把握できた。全体的に不安・溺愛・盲従・拒否の傾向が見られるようである。

この結果から以下の点が必要と思われた。

ア、子どもの心理的離乳をはかるだけでなく、親の側の子離れを考える契機となるよう指導していく。

イ、家庭への連絡、親との話し合いを密接にして学校と家庭が協力して指導にあたるよう配慮していく。

ウ、父親への働きかけということも少しずつ考えていく。



型	父	母
9. 矛盾型	0	15
10. 不一致型	0	0

---- 母親  
—— 父親

左図は、親子関係診断テストの検査結果をA夫の場合を例にあげて示したものである。

この検査では、親の態度をたてと横の軸の上に表し、中心からいずれかの方向に従ってその程度をパーセントの目盛りで表す。

50パーセントが中央値で普通という意味である。中心に近いほど良く、20パーセント以下は危険地帯、20～40パーセントまでは準危険地帯となり、親の態度で望ましくない傾向を表している。

している。

低学年の児童の親子関係は次表の通りであり、共通して不安・溺愛・拒否・盲従等の問題点が見られる。従って、本校の宿泊学習のねらいである心理的離乳は是非必要であることがわかる。

児童名	親子関係に見られる問題点
A 夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両親とも消極的拒否型、溺愛型が危険地帯に入っている。</li> <li>・父親については溺愛の傾向が強く表れている。</li> <li>・両親の態度の不一致や一貫性を欠く矛盾型の傾向も強い。</li> </ul>
B 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両親とも全体的にパーセンタイルが高く良い傾向である。</li> <li>・母親にやや不安型の傾向が見られる。</li> </ul>
C 子	<p>(入学前に父親を失い、母親のみの調査結果である。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母親は不安型と溺愛型が強い。特に溺愛型の傾向が強いことが目立つ。</li> </ul>
D 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消極的拒否型が、父親は準危険地帯、母親は危険地帯に入り、この傾向が強い。</li> <li>・不安型・溺愛型の傾向もやや強い。</li> </ul>
E 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんど全部の型が危険・準危険地帯にあり、非常に問題である。</li> </ul>

◎ 健康観察

ア、保護者との毎日の連絡・通信の中で日々の健康状態の調査をするとともに、既応症や体質など再確認をしておいた。

イ、C子など体調を崩しそうな子どもについては、すぐ医師の治療を受けさせた。

ウ、学校医の健康診断を受け、その際個人について配慮すべき点について相談を行った。

(4) 宿泊学習のための個人目標の設定

以上、3つの観点から事前調査を行ったわけであるが、その結果をもとに個人別の目標を設定した。しかし、目標の設定にあたって、宿泊学習が最初の経験であることを考え、身辺自立に関する技能や態度の育成に重点を置いたために、子どもたちに、心理的離乳どころか心理的不安や動揺を与える結果になっては、むしろ逆効果であることを警戒して、第1回の宿泊学習としては楽しい雰囲気の中で、とにかくみんなでひと晩すごすことに全力を注いだ。

その上で、技能・態度にかかわる最少限の個人目標を次のように設定した。この個人目標は宿泊学習の事前指導の段階で十分練習を重ねてきた学習内容である。ここでは、環境の変化に対して、子どもたちがどう反応するかを見ることを主眼として設定したものである。

児童名	個 人 目 標
A 夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(就寝) みんなといっしょに学校で寝る。</li> <li>・(入浴) とにかく入浴する。指示に従っておなかの部分 washing 洗濯機を洗うまねごとをする。</li> <li>・(着脱) 指示に従って、少しは自分でパジャマに着替えようとする。</li> </ul>

B 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(就寝) みんなといっしょに学校で寝る。</li> <li>・(入浴) 自分で洗えるところは自分で洗う。指示されたところ(耳の後ろ・足の裏・脇の下など)も洗う。</li> <li>・(着脱) 指示された服装にさっさと着替える。</li> </ul>
C 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(就寝) みんなといっしょに学校で寝る。</li> <li>・(入浴) 静かに入浴させる。</li> <li>・(着脱) 指示に従って、少しでも自分でパジャマに着替える。</li> </ul>
D 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(就寝) みんなといっしょに学校で寝る。</li> <li>・(入浴) 自分で洗えるところは自分で洗う。指示されたところ(耳の後ろ・足の裏・脇の下など)も洗う。</li> <li>・(着脱) 指示された服装にさっさと着替える。</li> </ul>
E 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(就寝) みんなといっしょに学校で寝る。</li> <li>・(入浴) からだのおなかの部分だけは自分で洗う。指示に従って、からだの首・胸・手・足の部分を洗う。</li> <li>・(着脱) 指示された服装にさっさと着替える。服の前後・表裏に気をつけさせる。</li> </ul>

#### (5) 宿泊学習実施のための事前学習

##### ① 指導の方針

ア、低学年の子どもにとって親元を離れて他人と一晩を過ごすのは初めての経験であることがわかった。そこで、宿泊学習実施までに学校で泊まることは楽しいことだという気持ちを育てるようにする。そのためには、学級旗の製作・テーマソングの使用(「パジャマでおじゃま」……着替え、「どこでねるの」……就寝、「コケッコ体操」……起床、「あらいましょう」……入浴)、クッキー作り、プール遊び、宿泊のしおりの作成など直接的な行動を通して学びとれる内容を多く取り入れるよう工夫し、楽しみながら宿泊に向って子どもたちの意欲が高まるような活動で学習を組み立てた。

イ、宿泊施設に慣れさせ、当日の抵抗を少しでもやわらげるために、今まで使用したことのない生活訓練室、風呂場等の場所を散歩コースにして何度も連れて行き、機会あるごとに利用した。

ウ、宿泊学習の中心となる入浴・就寝に関する実態を的確につかみ、指導の資料とするために学習の中に何回も入浴・就寝の活動を組み入れた。

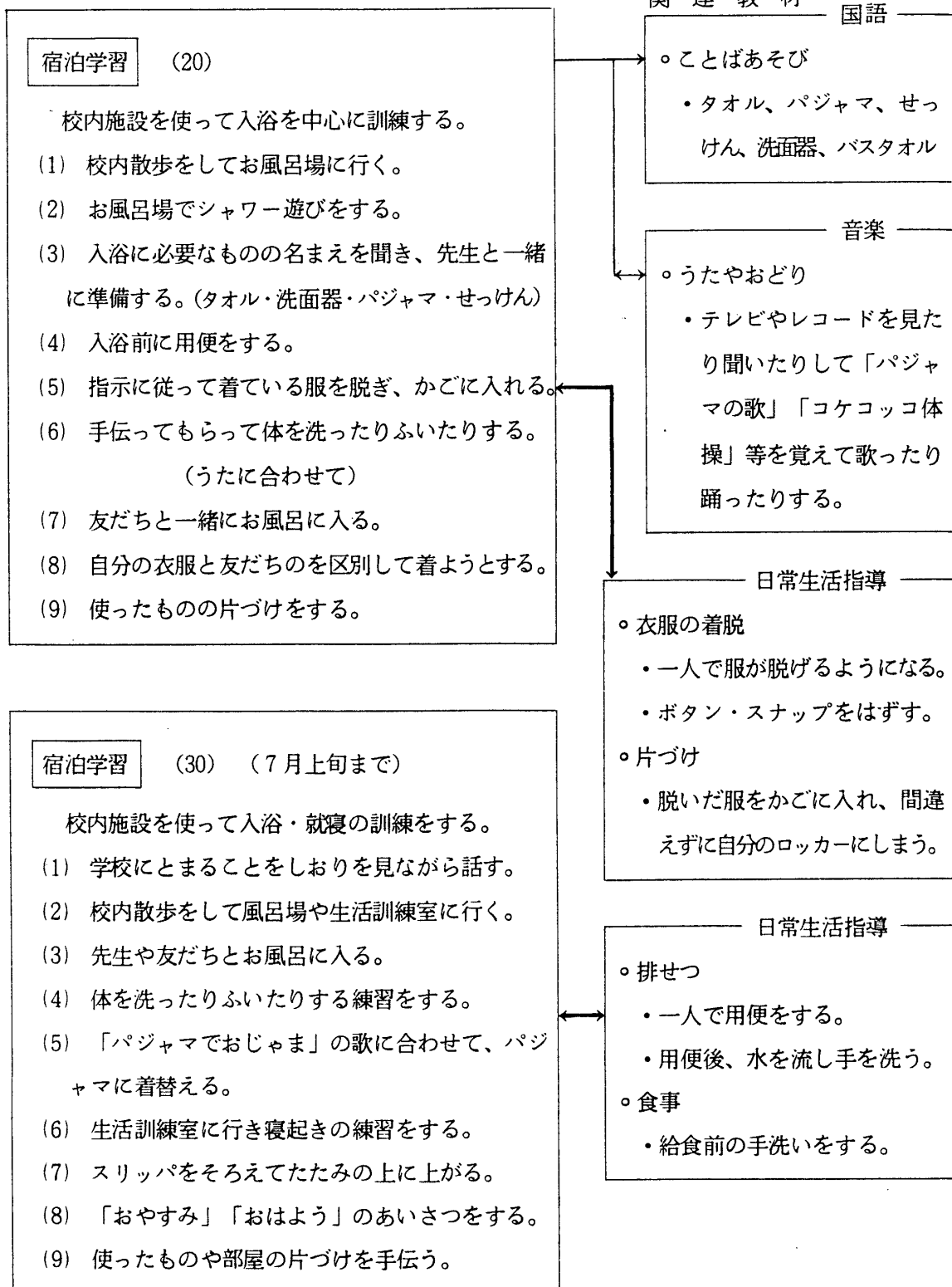
エ、学校に泊まって「自分で何でもやろう」という目的意識を持たせる良い機会なので、食事・



排泄・洗面等の日常生活も指導内容の重点とした。

オ、常に家庭との連絡を保ち、学校での学習内容が家庭でも理解されていて、家庭と学校が一貫した態度で指導ができるよう心がけた。


② 指導計画（5月・6月） 宿泊学習に関する部分のみ抜粋



③ 指導のようす

ア、入浴を中心にした学習（宿泊学習実施までにこのような学習を7回くり返した。）

学 習 過 程	児童の反応																																												
	A 夫	B 子	C 子	D 子	E 子																																								
1 教室で服を脱ぐ。 ・汚れた物はかごの中へ入れる。 ・くつはロッカーの前におく。	○□ ○■ ○■	○□ ○□ ○□	○□ ●■ ●■	○□ ○□ ○□	○□ ○□ ○□																																								
2 お風呂へ行く。 ・入浴用具をもって並んで行く。	○□	○□	○□	○□	○□																																								
3 お風呂に入る。	○□	○□	○□	○□	○□																																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="3">1 グループ</td> <td colspan="2">2 グループ</td> </tr> <tr> <td>B 子</td> <td>D 子</td> <td>E 子</td> <td>A 夫</td> <td>C 子</td> </tr> <tr> <td colspan="3">顔・股間を洗う</td> <td colspan="2" style="background-color: #cccccc;"></td> </tr> <tr> <td colspan="3">湯舟に入る</td> <td colspan="2">顔・股間を洗う</td> </tr> <tr> <td colspan="3">体を洗う シャワーで石けんを流す</td> <td colspan="2">湯舟に入る</td> </tr> <tr> <td colspan="3">湯舟に入る</td> <td colspan="2">体を洗う シャワーで石けんを流す</td> </tr> <tr> <td colspan="3">体をふく</td> <td colspan="2">湯舟に入る</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td colspan="2">体をふく</td> </tr> </table>	1 グループ			2 グループ		B 子	D 子	E 子	A 夫	C 子	顔・股間を洗う					湯舟に入る			顔・股間を洗う		体を洗う シャワーで石けんを流す			湯舟に入る		湯舟に入る			体を洗う シャワーで石けんを流す		体をふく			湯舟に入る					体をふく		／	○□	／	○□	○□
1 グループ			2 グループ																																										
B 子	D 子	E 子	A 夫	C 子																																									
顔・股間を洗う																																													
湯舟に入る			顔・股間を洗う																																										
体を洗う シャワーで石けんを流す			湯舟に入る																																										
湯舟に入る			体を洗う シャワーで石けんを流す																																										
体をふく			湯舟に入る																																										
			体をふく																																										
	○□	○□	●■	○□	○□																																								
	○□	○□	○□	○□	○□																																								
	○□	○□	●■	○□	○□																																								
	○□	○□	○□	○□	○□																																								
	○□	／	●■	／	／																																								



〔入浴で観察された事項〕

① 「風呂に入ろう」でみんなお風呂に入る雰囲気を知る。B子、E子は、「ワーイ、ワーイ」と喜ぶ。他の3人も脱衣から意欲的であった。

② 入浴のとき、A夫はおとなしく、他の4名は浴槽の中ではしゃぐ。

③ B子、D子、E子は歌にあわせて体を洗う。自分で洗う部分を指摘もした。

4 教室に帰る。					
5 パジャマを着る。（歌にあわせて）					
6 ジュースを飲む。					

1、就寝を中心にした学習（宿泊学習実施までにこのような学習を6回くり返した。）

学 習 過 程	児童の反応				
	A 夫	B 子	C 子	D 子	E 子
1 パジャマの歌にあわせて着替える。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・入浴用具の片づけをする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・パジャマの前後・表裏をまちがえずに着る。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
・ボタンをはめる。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
2 校内散歩で生活訓練室に行く。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・みんなできまりよく並んで歩く。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・階段の上り下りの練習。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・生活訓練室で遊ぶ。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・ひとりで生活訓練室に行く。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 ふとんを敷いてみんなでやすむ。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・ふとんの用意（手伝い）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・用便をする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・ふとんに入る。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・音楽にあわせて寝る。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 みんなで起きる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・ふとんからでる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・あいさつをする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・ふとんを片づける。（手伝い）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
〔就寝で観察された事項〕					
① 「たたみのおへやはどこ？」と尋ねると、D子が元気よく「にかい！」と答え、B子もつられて一緒に言う。					
② B子、D子は自分から手伝うと言い、シーツをひっぱりはじめた。C子は布団が敷かれるとすぐ「ねんね」といってゴロリと寝ころぶ。					
③ 布団に入ると全員声をあげて大さわぎする。					
5 服に着替える。					
6 みんなでそろって教室に帰る。					







(6) 第1回宿泊学習の実践経過




期 日 昭和56年7月7日(火)～7月8日(水)

場 所 学校内 生活訓練室

参加者 児童5名、教官7名(小学部教官、養護教諭)

① 第1回宿泊学習の内容

日時	項目	学習内容の概要	めだった児童の反応・行動
第 1 日	2	・開始式 ・グラウンドに集まる。 ・学級旗を掲揚する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A夫、C子は雰囲気を感じて整列できた。</li> <li>・B子、D子、E子は旗が上がるのを見て大喜びした。</li> </ul>
	3	・水遊び (ミニプール) ・水着に着替える。 ・プールに入る。 ・水遊びをする。  (体をふく 着替えをする)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員大はしゃぎで喜び着替えもスムーズだった。</li> <li>・A夫はしぶきがかかるのが嫌いでプール外で遊んでいた。</li> </ul>
	5	・つどい ・学級旗をおろす。 ・テレビを見る。	
	6	・夕食 ・手を洗いスマックを着る。 ・食前、食後のあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C子は食事の量が足らず不気嫌だった。</li> <li>・A夫、B子、E子が手をそえずに食べようとする。</li> </ul>
	7	・入浴 ・着替え等準備する。 ・風呂場に行く。 ・体を洗う。 ・体をふく。 ・パジャマを着る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ事前学習通りに入浴できた。</li> <li>・入浴後のジュースに大喜びだった。</li> </ul>
	8	・就寝 ・歯みがきをする。 ・用便をする。 ・ふとんの用意をする。(手伝い) ・あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C子だけ早く寝つき他の4人は興奮してなかなか眠らなかった。</li> <li>・E子がよくはしゃぎ他児を興奮させていた。</li> <li>・A夫は物音がすると目をさまし、眠りが浅かった。</li> <li>・C子は途中で目ざめて校内を歩きまわっていた。結局、自分の教室に行き教師と2人で寝た。</li> </ul>
			 
			 

第 2 日	6	・起床	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをする</li> <li>・ふとんを片づける。 (手伝い)</li> <li>・服を着る。</li> <li>・顔を洗う。</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・寝つきが遅かったにもかかわらず早く目ざめ、ふとんの中で騒いでいた。</li> <li>・片づけのあと遊んでいた。</li> <li>・C子は目ざめが悪く、次への行動になかなか移れずグズついていた。</li> </ul>
	7	・つどい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級旗をあげる。</li> <li>・ラジオ体操をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・D子が「おなかへった」と訴え元気がなかった。</li> <li>・C子がやっと朝の着替えを始めた。</li> </ul>
	8	・朝食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いをする。</li> <li>・残さずに食べる。</li> <li>・歯みがきをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・D子は食欲がなく汁以外はおかずを食べなかった。</li> <li>・他の4人はほとんど残さず食べた。</li> </ul>
	9	・クッキー作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スモックを着て身じたくをする。</li> <li>・タネをこねる。</li> <li>・型ぬきをする。</li> <li>・焼く(先生)</li> <li>・クッキーを食べる。</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・B子、D子、E子は喜んでタネをこねたり型ぬきをしたりした。</li> <li>・A夫、C子は少ずついただけで調理室を出たり入ったりじっとしていない。</li> <li>・終わり頃、全員疲れが見えてすわりこんでいた。</li> </ul>
	11	・後片づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荷物を整理して教室に持ち帰る。</li> <li>・使った部屋の片づけをする。(手伝い)</li> </ul>	
	12	・給食		
	1	・終了式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級旗をおろす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開始式に比べ、元気がなく疲れが見えた。</li> <li>・がんばったという気分は十分ありB子、D子からは「今日もとまろう」という声が聞かれた。</li> </ul>

就寝中に観察された子どもたちの様子について、気のついたことを簡単にあげてみると、次のようなことである。

児童名	就寝場面でのようす
A 夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴後、暗くなった窓の外をじっと見つめていた。一番宿泊を意識していたようで不安感があったようだ。</li> <li>・興奮して寝つきが悪く、夜中に何度も目をさましてうつらうつらしていた。</li> </ul>

B 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊することを喜んでいましたが、友だちと一緒にいるせいか興奮気味で寝つきが悪かった。</li> <li>・トイレに連れて行っても尿が出ず、結局2回失敗があった。</li> </ul>
C 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に寝ついたがしばらくすると目ざめ、声をあげて校内をあちこち歩き回っていた。低学年の教室に入ってからやや落ちついて、教師と2人で横になったが、眠りが浅く、夜泣きの様な状態が見られた。(家庭でもよくある状態)</li> </ul>
D 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊への不安はなかったようであるが、やはり友だちと一緒にいるということで落ち着かず寝つきが悪かった。</li> <li>・寝入ってからは熟睡していた。寝ぞうが悪く何度も布団をはねのけた。</li> </ul>
E 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番興奮して「キャッキャッ」と笑い声をたてて眠ろうとしなかった。母親から、頭に毛布等をかぶらないと眠らないと聞き、その通りにした所すぐ寝入った。</li> <li>・トイレに2回起こしたら排尿があり、失敗はなかった。</li> </ul>

② 第1回宿泊当日に観察されたこと

児童ひとりひとりの宿泊当日のようすを事前調査、事前学習のようすと比較して以下のような表にまとめてみた。上段 — 事前調査、中段 — 事前学習、下段 — 宿泊学習、とする。

{○……良好(できる) ●……不良(できない) △……大体できる ▲……あまりできない}を表している。

項目 児童名	目ざめ	就寝時刻	起床時刻	寝つき	就寝状態 (一緒に ねる人)	洗面	はみがき	入浴	排便	夜尿	宿泊中の特記事項
A夫	○	9:00	6:00	○	○ (父といっしょ)	●	●	●	1日1回 (介助)	失敗2回	・水分を多く欲しがった。
	○	9:30	5:30	△	△ (みんなと一緒に)	▲	●	▲	なし	失敗1回	
B子	○	6:30	6:30	○	○	△	△	▲	1日1回	失敗数回	・トイレに連れて行っても出ずに失敗した。
	○	9:50	6:00	△	○	○	○	○	なし	失敗2回	
C子	▲	11時頃	7:00	▲	▲ (だれかと一緒に)	●	●	●	不定 (介助)	なし	・夜中に何度も目ざめ熟睡せず、歩き回っていた。
	●	8:30	(4:00) 6:30	●	●	▲	●	●	なし	なし	

D子	○ ○	9:00   10:00	7:00   5:30	○ ▲	○ ●	○ ○	△ ○	△ ○	1日1回   なし	なし   なし	・食欲があまり なかった。
E子	○ ○	8:00 ~9:00   9:50	7:00   5:40	○ ▲	○ ○	▲ ▲	▲ △	● ▲	3日1回 (補助)   なし	夜尿あり   失敗なし (連れて いく)	・トイレに起こ せば失敗なし。 ・毛布を頭にかぶ ってねる癖あり。

(7) 第1回宿泊学習のまとめと考察

- ① 宿泊当日、心配していたにもかかわらず泣いたり、帰りたいと言う子どもがいなかったのが安心した。しかし、やはり初めての宿泊で、子どもたちはかなり緊張・興奮していたためか事前調査と宿泊当日とでは、就寝・起床時刻に差が見られた。
- ② 水遊びやクッキー作りなど、子どもたちが興味・関心を示し、楽しみがいっぱいという企画が意欲を高め、意識づけるのに効果的であった。
- ③ 普段の学習では、ほとんど興味を示さないC子が、宿泊事前学習の過程では意欲的に参加できたことに驚いた。
- ④ 入浴・就寝とも、具体場面の構成について、まだ多分にごっこ的なにおいが感じられる。
- ⑤ 事前学習の中で、子どもたちに“お風呂に入るとジュースが飲める”というパターンが成立してしまった。飲食物をどのように学習に組み入れていくか、今後考えていかななくてはならない問題である。しかし、今回はジュースが子どもたちの欲求につながり、意欲を高める上で効果的であったと思う。

次に、宿泊前・宿泊後の家庭の反応を生活ノートより抜粋してみる。

＝ 宿 泊 前 ＝

＝ 宿 泊 後 ＝

— B子の母 — < 6月30日 > —  
 学校からは、家でしていないこともしている様  
 ですね。見ていない様でも私のすることを見て  
 いて、毎晩布団のシーツをピンとはって、お  
 りこみます。これからは、少しずつ手伝わせて  
 みようと思います。

— B子の母 — < 7月9日 > —  
 あれほど大嫌いだった風呂が大好きになり  
 ました。毎日毎日無理やり入れ、泣きなが  
 ら入っていましたが、今では大きな声で歌  
 を歌いながら入っています。ちょっとのき  
 っかけで、こうも変わるものかと不思議で  
 す。

A夫の母 ————— 〈7月6日〉 —————

夜中は一回ないし二回はおしっこがでます。以前は夏はおしっこがでる前は親をおこしておりましたが、寒くなるとずぼらになり、現在は夜中はおしめをあてます。一番心配は、夜中のおしっこのことです。

A夫の母 ————— 〈7月10日〉 —————

宿泊後、夜中におしっこがでるようになると、おこしてくれるようになりました。朝起きるまでに2回起きてするようになりました。今回の宿泊、本当にプラスになり、喜んでおります。

D子の母 ————— 〈6月23日〉 —————

「どこでねるの」の歌、どんな歌なのか歌ってという、たどたどしい言葉ですが、だいたいわかりました。「D子は布団の中、あぁいい気持ち！」といい宿泊の話になると、目を輝かせていました。とても楽しみなようですね。

D子の母 ————— 〈7月8日〉 —————

帰ると家庭で学校での様子を話し、本当に楽しかったようで、「今日も学校に泊るの」と、はりきっていました。

以上、第1回の宿泊学習の経過について述べたが、子どもたちの宿泊学習に対する意欲は満々であった。嫌いだったお風呂が大好きになるといったように、第1回から効果が認められ、早い時期からの宿泊は、子どもの自立化にたいへん有意義であると思った。

また、この学習がきっかけになって、親の態度にも変化がみえはじめた。例えば今までできるはずがないと思っていたことにも、させてみようという気持ちが起きてきたようである。

第1回宿泊学習の反省をもとに、夏休み後、第2回宿泊学習を実施することにした。

#### (8) 第2回宿泊学習のための事前調査

第1回宿泊学習後、順調に一学期末を迎え夏休みに入った。休み前に保護者との話し合いを何度も行ない休み中の児童の生活について、家庭での訓練を継続し、一学期の成果をさらに定着させていくよう話し合った。夏休み中も、家庭訪問、電話連絡を何度も行ない、又、休み中の児童のくらしの中から目標を決め、記録してもらうようにした。

それにもかかわらず、二学期開始時、B子が母親と離れるのを嫌がったり、C子、E子の肥満傾向が強まっていたことなどが見られたことから、子どもたちが一学期末のままの状態ではなく退行を起こしている点もあるのではないかと考えられた。

そこで、夏休み中変化した子どものようすを把握して第2回宿泊学習に臨むために再度、生活習慣調査を実施した。学校生活で変化の認められた事項も含めて以下の表に示す。



一学期と比べ変化の見られた事項		
児童名	家庭調査で確認された事項	学校生活で確認された事項
A 夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>時々、下着をずらして便意を知らせた。</li> <li>スプーンでないと食事をしなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>失敗したらズボンに手をかけることが見られる。</li> </ul>
B 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>着替えを嫌がってだんだんしなくなった。</li> <li>洗面、歯みがきをぜんぜんしなかった。</li> <li>食事の姿勢が悪い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>送ってきた母親からなかなか離れようとしない。(特に始業式の日には泣いてあとを追った。)</li> <li>行動へのとりかかりが遅い。</li> </ul>
C 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>着替えはほとんど母親がしていた。</li> <li>はしで物をつまむことができ始めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み前より体重が4kg近く増えていた。</li> <li>動作が一段と緩慢になっている。</li> <li>じっとして何事にも意欲が見られない。</li> </ul>
D 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事の配ぜんや片づけの手伝いを進んでいた。</li> <li>入浴後の片づけがきちんとできるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>着替えへのとりかかりが少し遅くなった。</li> <li>一つ一つの行動に時間がかかる。</li> </ul>
E 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜尿が時々見られた。</li> <li>食事の時、手をそえて食べれるようになった。</li> <li>室内での遊びがほとんどだった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体に動作が緩慢になり、特に衣服の着脱が遅くなっている。</li> <li>体重が3kg増えていた。</li> <li>ぼんやりして活動的な遊びをしない。</li> </ul>

(9) 第2回宿泊学習実施のための事前学習

① 指導の方針

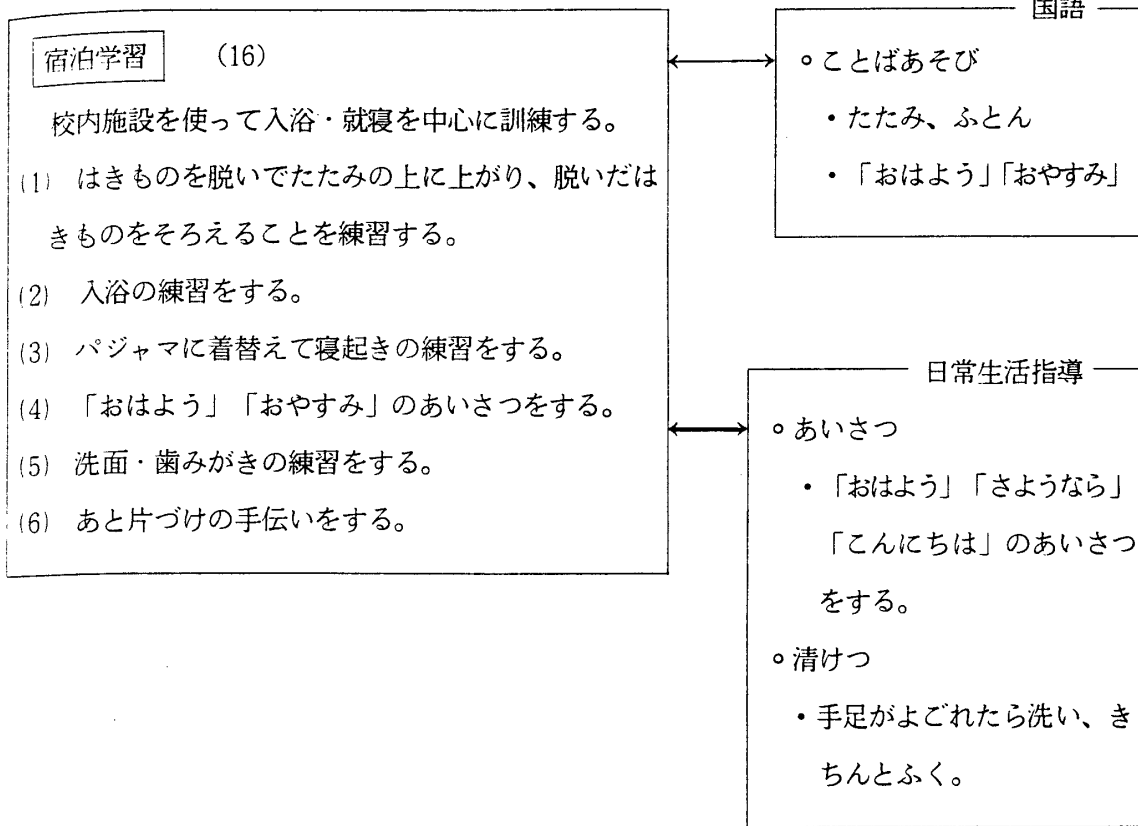
休み明けの児童の実態を見ると、身辺自立への意欲がかなり薄れていることが明らかになった。これは、時間に追われず、周囲に誰か援助してくれる人がいる生活の中で、又、刺激しあう相手(友だち)がいない生活の中で、生活リズムが不規則になったり周囲に頼る気持ちが強まったりしているためと考えられた。家族と(特に母親)ほとんど離れることのない生活を送っていたために分離不安を起こしている子も見られた。このことから、

ア、一学期と同じ一日の生活の流れを設定し、学校生活に早く慣れさせる。

イ、夏休み中に薄れた教師や友だちとのつながりを早く元に戻すために十分遊ぶ。

この2点を1回目の指導方針に加えることにした。ただし上記のような結果が見られたのは子どものしつけに対して親の理解がまだ十分得られていなかったり、理解していても実行が伴わない等の面が見られるので「オ」の項目についてはさらに重視していった。

② 指導計画（9月） 宿泊学習に関する部分のみ抜粋



③ 指導のようす

第1回目に行なった入浴と就寝の活動を中心に指導していった。2回ほどしか繰り返せなかったが、第1回目のようすをすぐ思い出し、喜んで学習に取り組んだ。事前指導を始めてから、子どもたちの態度に意欲が見られるようになってきた。

10 第2回宿泊学習の実践経過

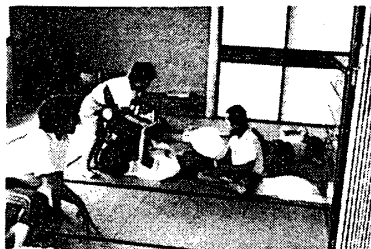
期 日 昭和56年9月8日(火)～9月9日(水)

場 所 学校内 生活訓練室

参加者 低学年児童5名、教官5名

① 第2回宿泊学習の内容 ※ ○は1回目と比べ変化した点である。

日時	項目	学習内容の概要	めだった児童の反応・行動
2	・開始式	・グラウンドに集まる。 ・学級旗をあげる。	
3	・散歩	・リュックに荷物をつめる。	・C子は見知らぬ場所に不安を感じ、泣いて松林から逃げ出そうとしていた。

第 1 日	5	・つどい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手をつないで松林へ散歩に行く。</li> <li>・おやつを食べる。</li> <li>・学級旗をおろす。</li> <li>・自由遊びをする。</li> </ul>	
	6	・夕食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手を洗いスモックを着る。</li> <li>・あいさつをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・D子が嫌いといわれていたまぜ御飯を半分食べた。</li> <li>◎A夫がのぼせてはしやスプーンをふりまわし、たくさんこぼした。</li> </ul>
	7	・入浴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を洗ったりふいたりする。</li> <li>・パジャマを着る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎A夫が先生の指示でおなかをこする動作をした。</li> <li>◎B子、D子はほとんど自分でできた。</li> </ul>
	8	・就寝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがき、用便をする。</li> <li>・布団をしく。(手伝い)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎興奮はしていたが、1回目より早く寝ついた。</li> <li>◎D子が一度も目をさまわず熟睡した。</li> <li>・A夫が興奮して寝つきが悪く、目をさまして声をあげたり友だちにちょっかいを出したりしていた。</li> <li>・B子、D子は、はりきって手伝いをしていた。</li> </ul>
第 2 日	6	・起床	<ul style="list-style-type: none"> <li>・布団の片づけ</li> <li>・服を着て洗面をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎全員、目ざめが遅かった。</li> <li>◎洗面が1回目よりスムーズにできた。</li> </ul>
	7	・つどい		
	8	・朝食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手を洗いスモックを着る。</li> </ul>	◎B子が1回目より少食だった。
	9	・クッキー作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・型ぬきをする。</li> <li>・やく(先生)</li> <li>・できたクッキーを食べる。(ジュースを飲む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C子はほとんど参加せず、おやつの時だけ席に付いていた。</li> <li>◎A夫は指示されてタネをちぎったり投げたりしていた。</li> </ul>
	11	・後片づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荷物をリュックに入れる。</li> <li>・使った部屋のそうじ(手伝い)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B子、D子、E子はがんばって片づけをしようとしていた。</li> <li>・A夫は先生に介助されてなんとかやった。</li> <li>・C子はたたみを見ると寝ころんでしまった。</li> </ul>
12	・給食			
1	・終了式			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「また泊ろうか?」と教師がいうと、B子、D子は「ハイ」と元気に答えた。</li> </ul>

就寝中に観察された子どもたちの様子について、気のついたことを簡単にあげてみると次のようなことである。

児童名	就寝場面でのようす
A 夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5人の中で一番興奮してなかなか寝つかず、友だちにちょっかいを出していた。</li> <li>・寝入ってからでも熟睡せずうつらうつらしていた。</li> </ul>
B 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目より早く寝入り、熟睡していた。</li> <li>・夜中に起こして排尿させたところ夜尿の失敗がなくなった。</li> <li>・目ざめが遅かった。</li> </ul>
C 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に寝つきがよく、夜中に目をさますことなく熟睡した。</li> <li>・目ざめもよく、そのあとの行動もわりあいスムーズにできた。</li> </ul>
D 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やはり少し興奮していたようだが1回目より早く寝入った。</li> <li>・夜中に自分でおしっこに起きて便所に行った。</li> <li>・目ざめが遅かった。</li> </ul>
E 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寝床でキャーキャー声を上げて他の友だちを興奮させていたが、しばらくすると寝入って熟睡していた。</li> <li>・夜中に2回起こしてトイレに行かせた所、失敗はなかった。</li> </ul>

② 第2回宿泊学習当日に観察されたこと

第1回目との比較で以下の表に示す。(○…深まりを認める〈はやくなった〉、⊗…変化なし、●…むしろ退行を認める〈おそくなった〉)

児童名	項目	目ざめ	就寝時刻	起床時刻	寝つき	就寝状態	洗面	歯みがき	入浴	排便	夜尿	宿泊中の特記事項
A 夫		⊗	●	●	●	⊗	○	⊗	○	なし	1回失敗 ○	
B 子		●	○	●	○	○	○	○	○	夕食後 1回	1回失敗 ○	・トイレに連れていっても排尿なし。
C 子		⊗	○	●	○	○	○	⊗	○	夕食後 1回	なし ⊗	
D 子		⊗	○	●	○	○	○	○	○	なし	なし ⊗	

E 子	⊗	○	●	○	○	○	○	⊗	○	なし	なし	・トイレに起こせば失敗なし。
-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----------------

(11) 第2回宿泊学習のまとめと考察

- ① 第2回宿泊学習は、夏休みあけ1週間後に行なわれた。1ヶ月余り家庭で甘えきって登校してきた子どもたちには、このような時期に学校に泊ることは、少し突発的であったかもしれない。
- ② 事前指導も、1週間のうちに、第1回宿泊学習の事前学習と同じ内容を繰り返し行なった。この時期は、教育実習中であったため、指導には実習生もあたっている。
- ③ 休みあけの子どもたちの実態（身辺自立面、健康面など）をはやく把握することに努めた。
- ④ この第2回宿泊学習は、運動会・教育実習・その他の宿泊学習など数々の学校行事との関連により、このような時期に計画されたわけであるが、学校へ出てきても家庭での延長のようになかなか甘えがぬけきれなかった子どもたちにとっては、家族と一日離れることでかえって学校生活をはやく意識したようである。
- ⑤ 第1回に比べ、全体に就寝が早くなり起床が遅くなった。泊まることに少し慣れて、落ちついてきたためではないかと思われる。
- ⑥ 洗面・歯みがき・入浴などの取り組みには、積極性が見られ、繰り返しと意欲の効果が表われていると思われる。
- ⑦ 第1回に続き、第2回も保護者の協力を得て、無事終了することができた。保護者も不安と期待がிரிまじった複雑な心境でおられたようだが、この2回の宿泊学習を通して、子どもたちばかりでなく、何かしら得られるものがあつたのではないかと思う。

次に、2回の宿泊学習を終えて保護者の感想を生活ノートの中でひろってみた。

……………宿泊学習を経験するまでに練習のつもりで一回泊まりました。学習後三回ばかり機会をつくり、そのうち一回は私と離れてでしたが、普段と変わりなかったようです。これを機会に、少しずつ外泊にも慣れさせ、いろいろな体験をさせていきたいと思います。ほんとうにとってもよい宿泊学習でした。来年は何を身につけて帰ってくるかと思うと、とても楽しみです。

どんな顔をしてうれしそうに出てくるのか楽しみに迎えに行くと、さっさと玄関に出て待っており、二回ともガックリしてしまいました。でもこの方がいいのかもしれない。迎えに行って「お母ちゃん」と言ってとびつかれるとかえって心配するかもしれない。……こうして親元を離れ、たび重なる集団生活でいろいろな事を吸収していってくれる事を楽しみにしています。

……心配と不安とで夜は目がパチリとさめ、一人いないため夜の静けさと朝が待ちどおしい一日でした。二回目は心もゆとりができ、夜も安心して休みました。この宿泊学習が子どもたちの成長につながり、一步一步前進が目に見え始めています。一度にお兄ちゃんらしくなったように思います。

#### 4 低学年における宿泊学習の評価と反省

生き生きと生活にとりくむ子を育てる取り組みの中で、身辺自立を確かなものにさせる試みとして、低学年における宿泊学習について述べた。

次の頁に示す表は、身辺自立の経過を5段階の評価表（参考資料 筑波大学附属大塚養護学校研究紀要）により、まとめたものである。

この表から、2回の宿泊を通して子どもたちに少しずつながら変化のようすが認められた。また宿泊学習を通して、次のことが考えられた。

- ① 事前学習で「泊まる」ということを、楽しい行事にするという意識づけを考えてきた。そのため、初めての経験だったが意欲をもって取り組めた。
- ② 教師の示範や子どもの直接行動、具体的操作、具体的行動を通して表現とかかわることが子どもの取り組みを確かなものとした。
- ③ 先生や友だちと行動することで、自分でやろうとする意識が芽生えた。
- ④ 先生といっしょに泊まることで、子どもと教師のつながりを深くした。
- ⑤ 保護者が家庭の中で、子どもとの学習を考えるよい機会となった。

以上、低学年の宿泊学習の実践を通して、社会自立をめざす低学年の指導について述べた。この学習を通して、子どもの具体的行動が意欲的な活動とつながり、さらに生活の中で、ことばを通して表現する子どもへと育てていこうとしているのである。

このような実践は、そのまま中学年に引きつがれているのである。

児童名	夫					子					子					子									
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5					
項目																									
・パンツをぬぐ																									
・パンツをはく																									
・パンツの前後を見分けてはく																									
・パンツの表裏を見分けてはく																									
・かぶりの肌着をぬぐ																									
・かぶりの肌着をきる																									
・パジャマをきる																									
・パジャマをぬぐ																									
・パジャマの前後を見分けてきる																									
・ボタンをはずす																									
・ボタンをはめる																									
・スナップをはずす																									
・スナップをはめる																									
・くつしたをぬぐ																									
・くつしたをはく																									
・くつをぬぐ																									
・くつをはく																									
・くつの左右に気をつけてはく																									
・脱いだ衣服をたたむ																									
・脱いだ衣服を指定場所にしまう																									
・衣服をハンガーにかける																									
・入浴前に便をする																									
・指に付着して体を洗う																									
a 手																									
b 足																									
c 腹																									
d 背中																									
e 股間																									
・タオルを使う																									
・洗面器を使う																									
・使ったものの片づけをする																									
・洗面をする																									
・歯みがきをする																									
・ふとんをしく																									
・ふとんをあげる																									
備考	・シーツをふとんの下において ・洗面では目を洗おうとしがたい																								

※ 1. 全部介助 ○ …… 指導前  
 2. 少しは自分でできる ◎ …… 第2回補習学習後  
 3. 少しの介助でできる □ は意欲あり  
 4. ほとんどできる ■ は意欲がない  
 5. 完全に一人でできる ◎ は完全自立

## 5 中学年における宿泊学習の実践

中学年は、宿泊学習の経験が2年目になる。母親が迎えに来ると思い夜の12時頃まで国道を走る車のライトを見続けたT夫は、宿泊学習の日を楽しみに待つことができた。友だちと遊ぶことを覚え、K夫やA夫に刺戟されて、ドタバタとテレビを見ながら元気よく遊ぶ楽しみもふえた。何よりも大好きな食事は、最大の関心事で、学校に泊まる大きな魅力になっている。

## 6 中学年の宿泊学習のねらい

中学年のねらいは、低学年と異なるものではない。しかし、低学年が行動を通して表現する力を獲得し、生活化していくのに対し、行動とことばを結びつけながら表現する力を生活の中で生かすように指導が組み立てられている。特に中学年では、身辺自立だけでなく、遊びなどを友だちとのかかわりをもって意識させ、社会化させていくことを心がけ、次の3つのねらいを定めた。

- (1) 身辺自立を中心にした日常生活の基本的なことを、自分でやろうとする態度・技能を身につけさせたい。
- (2) 24時間の生活を通し、友だちと仲良く行動することに慣れ、遊び合えるようにさせたい。
- (3) 基本的生活習慣や遊びが、どう定着しているかを観察し、次の指導の手がかりとする。

## 7 宿泊学習の経過

### (1) 事前調査と基本的生活習慣

宿泊学習にむかって個別指導を徹底するためには、入念な事前調査をもとに保護者と指導にあたる全教官で正しく実態をつかんでおく必要がある。事前調査に使用した生活調査は筑波大附属大塚養護学校で作成され使用されているものをそのまま活用させてもらった。

保護者に依頼した事前調査は、身辺自立を中心にした基本的生活習慣についてのものである。この調査をもとに学習を組み立てるのであるが年に数回学習したからといって急に基本的生活習慣が身につくものではない。この機会に、家庭を離れた子どもたちの生活実態を確かめる好機であり、指導のあり方を家庭とともに探ることができる。事前調査の結果は次頁の表のように学校での観察とのずれがいくつか見出された。しかし、保護者の目も2年目ともなると確かさが増し、ずれが少なくなっている。このような調査は主観的なものに左右されるから「見方のちがひ」の誤差が生まれがちである。保護者との話し合いによって事前指導の段階で改善できるものは宿泊学習までに取り組みに重点をおき、見通しを立てるようにした。

#### ① 指導例1：K夫の食事態度の改善をめざす場合

K夫の食事態度は、家庭○・学校×とずれが見える。母親との話し合いにより、家庭では食事に



つき添ってきびしく行なわれていることがわかった。学校の給食時では、担任がK夫の横で食事をし、家庭と同じ歩調で指導を試みた。現在食事中に2、3回言えば、食べ物をみんなまぜたりするようなことは少なくなった。まだひとりではできないが賞賛が効果的な子だから前途は明るい。

基本的な生活習慣の中には、宿泊を通さなければ観察できない家庭とのずれもある。この場合は、宿泊学習の結果から保護者と話し合うことによって家庭生活の改善に協力してもらわなければならない。次の事例は、わが子の障害に意識が集中するあまり子どもの成長に気づかないため、勇気をだして子どもの生活に取り組めなかったS夫の例である。

② 指導例2：ひとりで便所に行けなかったS夫の例  
S夫の夜間の便所は、家庭×・学校○となっていた。

氏名	A夫	K夫	T夫	S夫	M子	N夫
項目	学家	学家	学家	学家	学家	学家
就寝時刻	9:11			9:12		
ふとん敷き	×○					○×
ねまきを着る		○×	○×	×○		○×
点灯就寝	○×			○×	○×	○×
着替えの早さ				△○		△×
よくかむ(食)						△○
食後のしまつ				×○		△○
食器のせいり				×○		△×
もりつけ						△×
食器洗い				×○		
食事態度		○×				△×
歯みがき						
目ざめ			×○	△○		
寝小便		×○				
入浴がすき				○×		
ねまきのしまつ				△○		
夜間の便所		×○		×○		

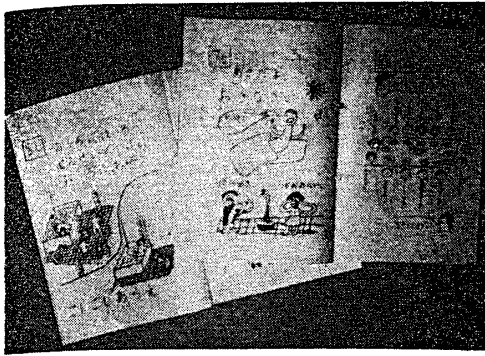
家で見たとの宿泊でのようす(54.4)

家庭連絡では「おねしょをするので寝ついたら連れて行ってほしい。目がさめたら眠らなくなるので、だっこしたままそっとさせてほしい」ということであった。宿泊学習では、その通りにしようとしたら目がさめてしまい「便所へ行っておいで」と言うひとりで便所へ行ってきて、ひとりで寝床の中に入って寝てしまった。

以上、基本的な生活習慣の確立をめざす宿泊学習の中学年の場合を家庭との連携という立場からとらえ、生活の中で取り組む態度づくりについて述べた。中学年では、この宿泊の機会が学校に於ける日常生活指導上の手がかりとなり、家庭での親の苦勞を知って共に語り合う中で家庭生活での習慣化について協力してもらおうチャンスなのである。低学年では、宿泊学習を通して身辺生活の諸能力について個を確立するという方向で指導が行なわれてきたが、中学年ではできるだけ社会化する方向で指導を考えている。従って、身辺自立の諸能力にしても教師は定着状況をおさえるための努力はするが子どもたちには、「みんなの力で楽しい宿泊をする」という友だちとのかかわり、教師とのかかわりを大切にして実施している。言い換えると、友だち同士が刺戟しあって、自分の表現を行動化し、言語化するところに中学年の特性があるので、子どもたちが最も楽しみにしている「ごちそう作りと遊び」についてその概要を述べる。

## (2) みんなで楽しいごちそう作り

宿泊学習のたびに絵本形式のしおりを作成している。学校に泊まることは「こんなに楽しいことがあるのだ」ということを学校でも家庭でもしおりを見ながらくり返し話し合いをするし



しおり みんないっしょに

おりには、どの場面にも友だち全員の顔を入れた。みんないっしょに生活するということを強調するためである。なかでも、ごちそうを作ることと食べることに興味・関心が集中した。他の組の友だちが家に帰ってしまい、中学年6名だけになると学校は静かになる。途端に家に帰りたくなる。そんな時、1学期の宿泊学習の時は、先生たちが夕ごはんの支度をしている所へ連れて行くと急に元気になった。支度をみんなが楽し

んで手伝った。そこで、2学期の宿泊学習では、「ごちそうを作る」という主体的な方向で取り組ませることにした。その結果は次の通りである。

- A夫 — あぶない手つきで、じゃがいもの皮むきをしたり、細かくきざんだり最後までし、コックさんになるのだとはりきっていた。
- T夫 — じゃがいもの皮を少しむいては逃げ、またはじめる。興味と根気がうまく作用しない。
- K夫 — なかなか落ち着いてやっている。じゃがいも、人参、なんでもあるものは右手や左手を交互に使いながら楽しくできた。後かたづけなどもがんばった。



みんなでごちそう作り

- M子 — 皮むき器を使ってじゃがいもの皮をむく。脳性マヒの手で長い時間をかけて1つだけやっどできた。しかし、とても楽しそうに笑顔をうかべてがんばった。
- N夫 — シチューのなべを何回も見ただけで、作る方にはあまり興味を示さなかった。
- S夫 — 一応友だちのすることはしようとする。自分ではやりたいのだが手の汚れるのが気になる子で洗いながらがんばった。

料理を手伝うということは、簡単なことのようにが大変危険を伴うので子どもたちの喜びとは反対に先生は大変である。しかし、積極的にごちそう作りに取り組ませてみて、子どもたちの興味に支えられて大成功であった。子どもたちが家へ帰りたくなった時どうするかということから出発した取り組みであったが、積極的にやらせてみて、具体的な活動を通し、みんなが楽しんで行動するという表現の基礎とかかわって有効な学習であった。

### (3) みんなで楽しく遊ぶ

早めの夕食が終わって風呂に入るまでの時間は、テレビを見たりおやつを食べたり、みんなのための自由な時間である。昨年の宿泊学習のこの時間では、はじめて6人がかけっこをして楽

しんだ。その時は、ただ意味もなく？走りまわって喜んでいるだけのものであった。本年度の2学期の宿泊学習では、遊びの内容がふえてきた。K夫・A夫・M子の順番を決めてのすもう



たのしい自由時間

ごっこ。K夫・N夫・M子のおやつを取り合っの遊び、A夫、S夫のテレビのチャンネル争いの遊び、T夫の友だちにさばりついて走りまわるもの等みんな生活訓練室で入り乱れての大さわぎであった。

親から離れて、友だちといっしょに行動できる宿泊学習は、子どもたちを結びつける好機である。子どもたちは回を重ねるごとにたくましく育っていることを実感としてもつものである。

## 8 高学年における宿泊学習の実践

高学年は、毎年10月に修学旅行を実施している。4月の校内宿泊学習に始まる宿泊を伴う行事では、「修学旅行に行こう」「松月旅館に泊ろう」を合ことばに、子ども達の意欲づけを図った。高学年の宿泊学習は、次に示すように、校内宿泊から修学旅行へと発展していき、校内から校外へと社会的な広がりを持つ場で指導される。従って、高学年では、自立化の内容が重点となるのは当然であるが、中学部との一貫性ある指導も考えて、学習行動を社会化する方向で表現活動と関連づけ、生活の中で生き生きと取り組む子の育成に努めるよう心がけている。

- 校内宿泊学習（4月） 基本的な生活習慣の実態把握・新転入児の行動観察
- 校外宿泊学習（6月） 鳥取少年自然の家を利用した環境を変えた宿泊学習
- 臨海学校（7月） 諸寄鳥大臨海教室を利用した海浜学習
- 修学旅行（10月） 日和山・天の橋立コース

校内宿泊学習では、新編成の高学年児童7名の基本的な生活習慣に関する諸能力の実態を把握し、学校と家庭が共通基盤に立って問題を解決し、習慣化や次の学習に役立てようとするものである。

校外宿泊学習では、校外施設を利用して、規則を守るなど日課にそった自主的な行動を通して新しい環境の中で生き生きと活動する芽を育てようとするものである。

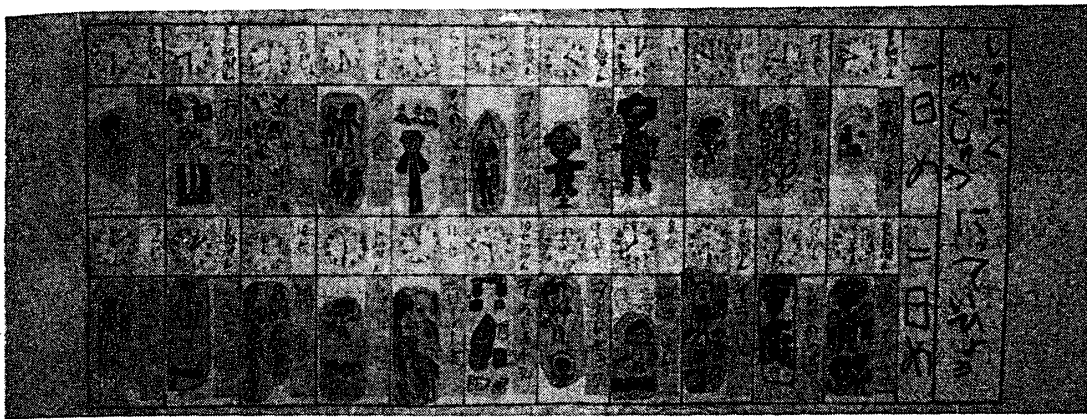
臨海学校も、海辺での生活を通して、新しい経験を通して社会化の芽を育てようとするものである。

修学旅行は、高学年の宿泊を通じた学習の総仕上げである。

以下、鳥取少年自然の家で実施した最初の校外宿泊学習の事例を追って、高学年の宿泊学習について述べる。

### (1) 鳥取少年自然の家における宿泊学習

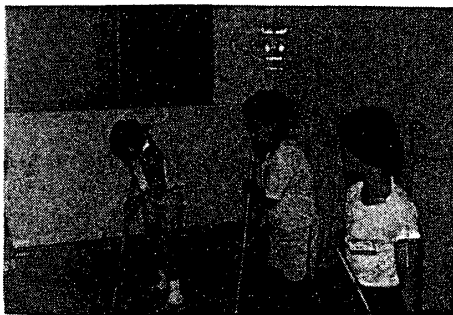
校外宿泊学習では、環境の変化による戸惑いを少なくするために十分な事前調査・事前学習が必要となる。下図は少年自然の家の規則をもとに児童の実態に合わせて、子ども達が作成した



た日程表である。日程作成の中で事前学習を繰り返して行い、宿泊学習にそなえた。

#### ① 入退所式・つどい

学校や家庭とは違った雰囲気の中で、少年自然の家の先生との対面。所長先生のお話。国旗・校旗・学級旗の掲揚・降納。初対面の人とのあいさつ。など、学校でそれぞれ役割を決めて練習してきたことを、みんな何とか無難にこなし、自信をつけることができた。



#### ② 起床・就寝・入浴・清掃

就寝の準備・起床・洗面・衣服の着脱など、基本的な生活習慣にかかわる事項は、最初の10分間は活動内容を指示するにとどめ、指導や補助は観察時間経過後、実態に応じて行った。学校の中ではほとんど自立しているが、場が変わるととまどうことも多く、大いに参考になった。

#### ③ 食事

食事の準備や片付けは、献立見本を見て自分でする方法である。学校給食の時間を少年自然の家方式に切り換えて、事前に取り組んだ。その結果、宿泊当日も比較的スムーズに取り組めた。また、他校と一緒に食事は子ども達に普段とは違った緊張感を持たせ、食事のマナーを身につけさせるのに役立ったと思っている。



#### ④ フィールドアスレチック



少年自然の家での楽しい学習のひとつである。こうした機会を通して、子ども達はお互いに助け合ったり、いたわったりする心情が育っていくのだと痛感した。中でも、学校でいつも動作が遅い〇夫が、歯をくいしばって障害物と取り組み、友だちをリードするという普段の生活では見られない一面がとても印象深かった。

子ども達は、規則正しい生活をするのが苦手である。この校外宿泊学習の後、臨海学校・修学旅行と学校とは違ったいろいろなきまりの中で、社会に目を向けさせ、学校・家庭の生活を見直して、子ども達が生き生きと生活に取り組む子に育つことを願っているのである。

### 9 小学部における宿泊学習のまとめ

小学部における表現化に視点をあてた学習指導を、宿泊学習を例に、低学年の実践を中心に述べた。勿論、宿泊学習は、小学部における表現化との取り組みの一例にすぎない。この事例だけから小学部の取り組みの全体をみることは難かしいかも知れない。

そこで、研究経過の概要・表現化に視点をあてた学習指導で述べた全体構想をふまえ、小学部の自立化に重点をおき、表現の芽を育て、生活の中で、「生きて働く力」を身につけていく指導を考察し、まとめてみる。

- (1) 表現化に視点をあてる小学部の立場は、自立化の経験内容を指導の重点項目とし、基本的な生活習慣の確立をめざして精選し、生活の中での確に習慣化をめざすことである。
- (2) 表現化に視点をあてた小学部の指導では、学習内容を直接行動・具体操作とくり返し取り組むことにより、表現の芽を大切に育て、動作化・言語化・作品化することで、表現の力を身につけていくことである。
- (3) 学習の展開にあたっては、事前に保護者と学習内容を話し合っ、家庭の中に共通の基盤をもつことが重要な取り組みのひとつである。学校と家庭が歩調を合わせた指導が、表現する力を身につけるために欠くことができない要素である。
- (4) 子どもが表現する力を身につけていくには、楽しさを基調に学習が組み立てられ、興味・関心に支えられた指導が効果的である。
- (5) 子どもの定着・進歩は、そう簡単に目に見えない。しかし、1時間を大切に授業の積み重ねの中で、教師の確かな目を養い、評価と取り組まねばならない。